

# 会議録

- 1 会議の名称 令和6年度 第4回 子ども・子育て会議
- 2 会議日時 令和6年12月3日（火）午後1時30分から
- 3 開催場所 熊取ふれあいセンター 4階 研修室
- 4 議題 (1) 部会等からの報告  
(2) (仮称)熊取町こども計画(案)について  
(3) その他
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴者数 1人
- 7 審議等の概要

## 案件1 部会等からの報告について

### 【保育所・幼稚園部会 代表委員からの報告】

11月5日に開催。出席者は6名。

全員でのフリートークから3つの共通課題となる話題を絞った。1つ目は、熊取町でも令和8年度に導入予定のこども誰でも通園制度について。出席の熊取町内の園では、導入を前向きに考えている園と難しいと考えている園が半々の現状だった。その双方が、人材確保の難しさをあげていることが、この施策実行の1番のハードルであると思った。また、委員から先行して実施されている神戸の園の情報として、発達に気がかりがある子どもたちの利用が大半を占めており、困難を抱える家庭からの強いニーズを理解しながらも、個別対応が必要な子どもへの人員確保に四苦八苦しているという現状も語られた。今後も、この問題を考えていく上で、大事な観点だと感じた。これは、現行の一時預かり保育においても、同じ現象が起きている。会議では、一時保育とのすみ分けについての質問が出たが、厳密なすみ分けは、今のところ回答が難しいという見解が共有され、今後この施策を熊取町としてどのように位置付け、令和8年度に実施するのであれば、実現可能とするための具体策は何か、もっと検討が必要だという共通認識となった。

次に、障がい児保育・加配保育士の問題について。年々増加する園での加配児について、ここでも人材確保の難しさが話題にあがった。その一方で、保育士を増やすだけが、豊かな障がい児保育の在り方なのか、また加配決定の基準そのものに疑問を呈す意見も多く出された。加配制度の根本的な見直し、早期療育の必要性、センター機能をもつ療育の場が熊取町内にないことへの問題提起など、現場ならではの踏み込んだ意見交換がなされた。

3つ目は、学校連携について。加配児の丁寧な引継ぎがその後の学校でどのくらい活かされているのか。また、学童期・思春期において、学校現場の先生と卒園児の保育園、こども園とは情報共有がなく、学校と協働できていないもどかしさが語られた。文科省で、令和4年度から「幼保小の架け橋プログラム」の実施が全国で奨励されており、熊取町ならではの「熊取架け橋プログラム」を構築していくとよいのではないかという話もでた。

全ての話題に通じて、人口4万人の熊取町ならではのきめ細やかな連携・協働の在り方を模索したいという意見が多かった。少子化は目の前にあり、保育分野でもこれまで通りの方法では

解決できない課題が見えてきている。それぞれの分野を横断するような、多岐に繋げるような施策は見えてこない。熊取町の未来の子どもたちのことを考え、立場を超えた視点、組織、会議の場が必要だと思う。役場においても、子どもに関わる関係各所が今まで以上に風通しのよい連携を行い、この5か年の間に各分野の断片的な施策ではなく、0歳から18歳までの子ども時代を支える、切れ目のない施策を考える、様々な立場の人でつくる、新たなワーキンググループを熊取町子ども計画の傘下に組織し、次の5か年に向けて、一貫性のある施策・計画を実行する部隊を作ることを計画に盛り込んでほしい。

#### 【放課後児童健全育成部会 代表委員からの報告】

11月14日に開催。出席者は5名。

内容は、放課後の居場所である学童保育について。コロナ前は、キャンプや親子レクなどがあり、子どもたちも楽しめることを指導員と保護者が一緒になってたくさんしてきた。今後も、保護者の要望を聞いて、色々なイベントをしていけたらよい。

学童以外での子どもたちの過ごし方について。学童に行っていない子どもたちは、こども会のイベントや習い事、自宅などで過ごしている。子どもたちが集まる公園は、ボール遊びができない、親同士が知り合いでないと遊びに行けないといった親の結びつきが関係して生じる問題もある。

また、スポーツ少年団の繋がりも変化している。送迎などの親の当番の負担があるため、途中で辞める人がいる。こども会も親が役に当たるようなら辞めるといった声もある。スポーツ少年団では、親の当番を最小限にし、子どもたちが上手に参加できるようにしている。スポーツというところから、親も含めて、子どもの経験を豊かにしていく役割が大事だといった話も出た。

小学校の子どもたちの様子について。放課後はゲーム、YouTube、TikTokなどのSNSを見ている時間が長いという現状がある。学力・学習状況調査の生活アンケートの中でも、ゲームやSNSなどに長時間触れている子どもの割合が増えてきており、心配である。自分たちが育ってきた時代と異なり、今の子どもたちは生まれた時からSNSなどがある時代であるため、その価値観や感覚を理解した上で、すり合わせていく必要がある。時代が変わるスピードは、早くなり、時間のサイクルが早く、常識が変化する世の中になるので、学校としてしっかり見極め、話をすり合わせていかなければならない。

最後に、学童保育の施設整備や職員の確保といった課題が書かれているが、学童を運営する側としては、充実を図るために具体的な形で進めてほしいと思う。そして、何かを行う見込みがあるという意思表示が感じられるような記載にしてほしい。また、スポーツ施設の充実もあわせて行ってほしいとの話も出た。

#### 【子育て支援部会からの報告】（代表委員欠席のため、事務局が代理で報告）

11月12日に開催。出席者は6名。

1つ目は、情報の届きにくさがあること。健診等で、ぷらっつ、ロンド、ファミサポなど様々な情報を両親に伝えているが、情報が残らず、その場にならないと自分ごととして捉えられない。また、そのことを近くの人に聞くこともできず、せつかく届けた情報があまり残ってないので、残念との意見がでた。

2つ目は、妊婦さんたちが病院の教室では繋がっているが、熊取という地域では繋がっていないこと。役場でも何度か妊婦さんの教室をしているが、最近はお産間近まで仕事をしている人も多く、どうしても病院が優先になる。産む直前まで、地域とのつながりが無い状態がある。

3つ目は、広場を利用している人から、「利用後、元気になった」という声もあり、参加すること自体が嫌ではないとわかるが、はじめの一步を踏み出すことに勇気がいるため、保護者が広場につながりにくいという課題がある。また、ホームスタートなどは、自分よりもしんどい人が使うものだと思っている方が多く、誰でも何回でも使っていていいということが伝わっていないのではないかと。専門職や保健師などに相談するのも勇気がいる。保健師からの質問にドキドキしたり、怖かったりと、ハードルがあるという声もある。

もう1点は、関係団体ヒアリングでも出ていたが、保護者の方に外国人の方が増えている、高齢出産などでダブルケアになっている方が増えていること。地域での広場事業と幼稚園、保育園、学校との繋がりが不足していて、広場で気になっていた子が、幼稚園、保育園、学校でうまくいっていないという話を聞くと、非常に悲しい。もっと情報の連携ができれば、うまくいくのではないかなと思う。連携のためには、顔を合わせる機会が大切で、顔見知りになれば細かいことも聞きやすくなるのではないかと。また、サポートが必要な子どもへの関わり方のコツや1つ前の段階でどんな積み上げが行われていたかが次の段階に伝われば、もっと対応がスムーズになるのではないかなという意見もあった。

計画案について、子どもや若者と言う表現がわかりづらい。特に漢字の「子ども」、ひらがなの「こども」。国が提示している中身がわかりにくいとの意見が出た。

また、第4章のP54からP63の課題整理について、前回資料よりは見やすくなった。ただ、課題とそれを5年間でどのように解消していくかが、部会の段階の資料ではわかりにくいといった指摘があった。

#### 【地域若者支援部会 代表委員からの報告】

11月7日に開催。出席者は6名。

若者支援に必要なものとして、居場所づくりが必要という意見が出た。作業や勉強ができるスペース、スマホを触っても問題がない、自分のペースで過ごせる場として、例えばスターバックス、コメダ珈琲のようなカフェスペースがほしいという意見があった。また、コミュニティカフェの提案もあった。

若者の引きこもりについて。希望が丘だけでも複数、把握しているとのことで、社協の取り組みとして、高齢の方だけでなく若者の支援もしていきたいという話が出た。具体的な交流の場として、街コンの提案があった。街コンは、すでに商工会で開催しているが、頻繁に行うことは難しいとの話だった。また、結婚すべきという価値観の押し付けになりかねないという懸念から町として推進しにくい現状があるとのことであった。結婚したくないと思っている人もいる多様性の時代なので、趣味でつながるイベントがほしいといった意見があった。例えば、車好きが自分の車を持ち寄って交流するイベントや趣味に力を入れている方がたくさんいると思うので、気軽に店出したり、ワークショップを開いたり、展示できるイベントができればよい。また、自分が出店しなくても、独自の知識やセンスのある若者をイベントの企画者に選出できるなど、イベントに主体的に参加できる仕組みがあれば良いと思う。若者からイベントの管理・運営する者を募って、共に運営していくことで、会話や一体感が生まれ、地域づくりが

進んでいくと思う。また、自分自身が輝いた後は、次世代が明るくなるようなイベントを支える側になってもらいたいと思う。そうすることで、独身・子育て世帯関係なく、地域に関わっていける孤立させないまちづくりになるのではないかと思う。

#### 【若手職員ヒアリングについて 出席職員 2名より報告】

11月6日に開催。出席者は、会長、熊取町役場の39歳以下の職員19名、委員（若者）2名。ヒアリングは、計画に若手職員の意見を取り入れること、町の施策について住民の目線、地域レベルの目線で考えること、様々な分野の職員が話し合いの場を持つことを目的に行った。当日は事務局より、こども計画と開催経緯を説明した後、参加者を結婚しているグループと、していないグループに分け、意見を出し合った。参加者には、住民の目線になって、若者支援に何が必要かを考えてもらい、その意見に対して、職員の立場として何ができるか発表してもらった。

結婚しているグループについて報告する。1番多かった若者支援に必要な子育てに関する意見として、おむつ、ゴミ袋、タオル、ランドセルなどの物品の支給があれば助かるといった声があった。これに対して、他の自治体の好事例を参考として住民に提示する案、物品の支給ではなく様々なニーズに応えるために子育て支援のための地域振興券を配るといった案が出た。

2番目に多かった防犯・交通に関する意見として、駅前に歩道がない部分があるため、役場の前くらい子どもが歩きやすい安全な道を整備してほしいといった声があった。これに対し、安全な歩道等の整備を優先的にやること、歩行者が多い時間帯は車道一方通行規制をする、スクールゾーンの設置、道路のカラー舗装や柵を増やすという施策案がでた。

お金に関する意見について、1番子育てにお金がかかる高校生・大学生のいる世帯の固定資産税や家賃の援助をしてほしいという声があった。結婚してどこに住むか決める時に、他市町村にない援助があれば熊取町に住むインセンティブになる。

このグループは、出た意見に対して財政視点で削減できる部分を探し、解決策を模索するという傾向にあった。その中で特に町主催のイベントの見直しについて、多く意見があった。町のイベント関連には、年間で2000万円から3000万円の費用がかかっているため、団体や民間が行うイベントを町の施設へ招致する。また、近隣市町村と内容や日程がかぶっているものを削り、その代わりに町の広報やホームページで、近隣市町村のイベントについても周知するという案がでた。そうすることで、町主催のイベントをより独自性のあるものにシフトできるのではという意見があった。他にも、ひまわりバスの大人運賃の有料化、子どもは無料にし、子育て世帯の利用を促すという案、高齢者向けイベントの削減、有料化を進める案もでた。そして、削った事業の財源がどこに使われているのか、住民にわかるように提示することが必要という意見もあった。これからも続けてほしい支援については、朝の子ども見守り隊や保育中に出了たおむつごみの園での廃棄等があった。

結婚していないグループの意見について報告。子育てに関する住民目線の意見として、病児保育施設、児童発達支援センター、療育施設等、町内にない施設を望む意見がでた。また、それらの施設を必要とする家庭が、熊取町から転居する可能性があるという指摘もあった。職員目線の意見として、閉鎖している町の施設等を利用して、それらの設置を目指してはどうかという案がでた。また、環境に関する住民目線の意見として、公園や校庭の使用に制限があるため、

子どもの遊び場がないという意見が出たほか、子どもが遊ぶ際の近隣住民とのトラブルについて指摘があった。職員目線の意見として、トラブルを避けるために、制限の少ない公園や公共施設などを示したマップを作り、子どもや保護者、公園や施設の近隣住民へ周知する案がでた。交通に関する住民目線の意見として、道路や道幅、路面の状態、通学路の安全、無灯火の自転車や夜間の照明の少なさ等、町内の交通への不安を感じている意見が出た。その他にも、夜間帯のバスの運行本数の少なさや、ひまわりバスの駐車場所が図書館の側にないことなど、町内の交通の不便さを指摘する意見も出た。また、これらに対する職員目線からの意見として、緑を増やしたいという意見と通学路へのガードレールの設置という案を合わせて、植え込みや街路樹でガードレールの代用とするという案もでた。

その他、住民目線では、若者が遊べる場所が町内にないと思う。就職支援として、学校で何か行ってほしいという意見がでた。職員目線からの意見として、ハローワークの職員を招くなどして、町内でも就職セミナーを開催する案や職員（保育士等）の不足を補うため、町内の大学と連携して、学生アルバイトやボランティアを活用する案もでた。

このグループでは、全体を通して町の取り組みが周知されていないという意見・指摘があり、取組を紹介するパッケージをまとめたものを作り、転入時や出生時に住民課で配るなど、取組の周知方法について、意見が挙がった。

ヒアリングにて行ったアンケートについての報告。ヒアリング終了後、参加者の感想などをアンケートとして、回答いただいた。回答内容については、他の課の方と議論を行い、様々な視点や他の課の役割を知ることができた。他市から出勤している職員の意見を聞いて見えてきた事など、意見交換や議論を通しての学び・発見があったという回答を多くの方が挙げているほか、1つのテーマで様々な職員と話し合う機会が貴重だった、様々な視点で考えることができ、勉強となったなど、今回のヒアリングが有意義な時間であったという回答も多くあった。その他にも、町について深く考える機会となった、住民と役場職員それぞれの目線からの意見を整理する難しさを感じた、話しやすい雰囲気や聞いてもらえる安心感があれば、有意義な話しができること知れたといった回答もあった。

会 長：補足や質問、他に聞きたいことがあればどうぞ。

委 員：地域・若者支援部会について。街コンなどの結婚だけにとらわれないイベントなど、クリエイティブなことを考えていてすごいと思ったが、自分たちで頑張らないといけない雰囲気がある。発起人がいて、人を集めてと、力のいることなので、誰かが頑張らないといけないように思う。どんな思いで、どんなことをしていきたいのかが気になった。

地域・若者支援部会代表委員：

誰が本部として運営していくのかという点までは考えていなかった。先日、ワンダーフォレストにボランティアとして参加した。運営している夫婦に、インスタのDMでアプローチしてメンバーに入れてもらった。この人の下で一緒にやっていきたいという人がいればよい。熊取町内で、行うことにこだわってもよいのではないかと。また、飲食店に立ち寄った際、近隣の他のお店の名刺が壁にたくさん貼ってあり、そのお店のスポンサーのように感じた経験があり、自分自身を表現し、交流するという横の繋がりがあれば、孤立を防ぐことができるのではないかと。

と感じている。自分の表現したいものを提示し、みんなで管理・運営していく。また、スポンサーとして応援する形の人もいるというのが理想像。管理・運営していく人は必要になると思う。

委員：たくさんの思いを持たれていて、若い力は素晴らしいと思った。力を合わせていけたらいいと思う。

委員：周囲に気を遣わずに、スマホやパソコンを持ち込んだり、集える場所がほしい。熊取町には、かむかむプラザなどの勉強できるスペースはあるが、話したり電話したりできる場所はないので、気兼ねなく集える場所がほしい。今年1年で実現できるようなことではないので、実現できるまで次の世代に頑張ってもらいたい。

会長：若手職員ヒアリングの場にいた。役場の職員のため施策に詳しく、業務横断的に、一方で市民の目線に立っていた意見があつて面白かった。町が財政的に厳しいなら、シニアのサービスをきって、若者にあててもいいのではといった意見もあった。異なった経験や状況の人が語り合うことが、地域福祉の観点で大事だと思う。

## 案件2 (仮称)熊取町こども計画(案)について

事務局より、資料1「(仮称)熊取町こども計画(案)」に基づき、説明を行った。

委員：保育所・幼稚園部会の中で、各機関・各部署の連携が不十分ではないかということが話題になった。他の部会においても、幼稚園や保育所と連携して協議できていないといった意見も挙がっていた。P104第8章「計画推進体制」について、第2期の推進体制を見直したところ、第2期には、「熊取町らしい協働体制を一層強化するため、豊かな子どもの育ちネットワークをはじめ、子ども・子育て会議や各種部会における情報共有・審議・調整・検討の場を定期的で開催します。」と具体的に明記してあった。一方で今期は、「連携協力と情報共有を行うことが大切です。」と書かれており、大切なことはみんな重々わかっていると思う。これだけ第2期で具体的に書かれていても、学校との連携が十分でないといった部会の話もある。問題意識が出されているならば、書き方をもう一步踏み込んでよいのではと感じた。また、「年に1回の子ども子育て会議だけではなく、段階的に促していくようなことに取り組みます。」といった一文も入れたらよいのではないか。

委員：P56学童保育の課題について。学童保育の施設整備や職員の確保に「条例の基準を満たせていない状況となっているため、既存施設の有効活用や新たな施設整備も含めた対策を検討し、実行していく必要があります。」とあり、まさしくその通りだと思うが、P82主な取組「No130放課後児童健全育成事業(学童保育事業)施設・設備の整備」の事業内容の中に「条例基準を満たせるよう」という言葉を入れてほしい。

委員：P88 No186「安全・安心な公園づくり」の公園づくりを目指すについて、地区によって環境が異なるように感じている。熊取町に30年以上住んでいるが、住宅地がどんどん増えていても、その地区に新しい公園ができたことはない。ただ山手には、新しい公園ができてきた認識はあ

る。どの地区にどのくらいの規模で、公園を作るかといった具体的な内容があればよい。子どもが公園を利用するが、面白い公園は遠いので行きづらく、自転車で行かせるのは交通の面もあり心配。かといって近くの公園は、すべり台が1つしかない、椅子しかないなどの状況があるので、それも踏まえて公園が少ないところにも重点的にお願いしてもらえたらと思う。

委員：「インクルーシブ」についての注釈がない。町民の方がどのくらいこの言葉を理解できるのかと思ったので、注釈をつけてほしい。

委員：P58 障がい児への支援の課題「インクルーシブ保育の推進やきずなシートの活用」について。学校との連携で、きずなシートがどのように活用されているかわからないといった話があったように、この課題の中に「各保育所での受入体制の充実が求められる中、所属先の変更に際し、個別支援の取組がスムーズに引き継がれるよう」と書いているが、所属先というと就学以前に限った所属の変更のような感じがするので、「所属先の変更や就学先の変更」といった、学校も含んでいるような表記に変えた方がよいのではないか。

委員：P21 各種手当及び助成の状況の「生活保護」について。令和6年度9月末は330件になっているが、前年度は2桁である。多すぎると思うがどうなのか。  
また、P102(13) 乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）について。初年度は月60人の予定でもよいと思うが、毎年200人ぐらいの子どもが生まれ、月2回、8時間程度利用できるという制度だと思うので、これだと誰でも通園できないと思う。数的に増えていないので、気になった。徐々に考えていくべきだと思う。

会長：第8章「計画推進体制」について、前計画のように書いてもよいと思う。また、「条例基準を満たせるよう」という言葉を入れるかについて、目標は条例基準に基づいて行うことになるので、入れておいたほうが基準ははっきりすると思う。公園については、色々表現はあると思うので、趣旨が反映されるようにしたいと思う。所属先についても、表現を変えたらよいと思う。こども誰でも通園制度については、新たに条例で基準を定めるのか。

事務局：インクルーシブ保育の説明について。P72 「No35 インクルーシブ保育」の事業内容に、「全てのこどもが個々に必要な支援を受けながら、みんなが同じ場で保育を受けるというインクルーシブ保育の理念のもと」と前置きで説明している。

委員：P88 「No187 インクルーシブ社会」にも「インクルーシブ」が出てきている。わからない人もいると思うので、説明を入れたほうがよいのではないか。

事務局：説明を追記できるよう修正する。「インクルーシブ」という単語が初めてでたところのみ、説明を入れるという考え方もあったが、ページが飛んでしまうとわからなくなってしまうので、表現の仕方を工夫しながら、分かりやすくなるように努める。

事務局：こども誰でも通園制度については、新たに条例で定めることを求められているため、その方向

で考えている。

会 長：各委員の方にこの会議に参加した感想や思い、学んだことを書いてもらいたい。A4用紙1枚くらいで、締め切りは追って事務局から連絡してもらう。事務局が最終案をまとめて町長に示す際に、各委員の感想を付け加えて提出したいので、ぜひご賛同いただきたい。

→ 出席委員全員より賛同あり

※委員から質問のあったP21 各種手当及び助成の状況の「生活保護」の件数およびP102 (13) 乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の量の見込みについては、会議後、事務局より委員にどのように修正するか説明を行った。

## 8 審議会の情報

名称	子ども・子育て会議
根拠法令等	子ども・子育て支援法
設置期間	平成25年10月1日～
所掌事項	子ども・子育て支援計画の策定等に関する審議、実施状況及び推進に関すること。
委員数	25人

## 9 担当課

子育て支援課